

2023 年度 部局 FD 活動報告

農学部・研究科

1. 各部局のFDの検討・実施体制を書いてください。（必ずご記入ください） - 各学科・専攻の会議にて、学部/研究科教育運営委員が主体となってFD活動を実施した。 - 学部・研究科の教員および学生を対象としたセミナーは農学セミナーとし、周知した。		
2. 教育改善・教育評価・FDに関する講演会、セミナー、ワークショップ等の開催		
開催日	内容（タイトル）	参加者数(教員)
4月7日（金）	シンポジウム (SDGs 駆動型都市農業×情報学/横井修司・公立大)	80
4月26日（水）	農学セミナー1（シロイヌナズナのホウ素輸送体 NIP5;1 のホウ素に応答した転写と翻訳の協調的な制御機構/田中真幸・公立大 特任研究員）	24(8)
4月26日（水）	Technology Innovation Institute (UAE) の研究者との交流/岡澤敦司・公立大	1(1)
5月22日（月）	農学セミナー2（植物における小胞体以降のタンパク質品質管理の可能性/長島幸広・Texas A&M ポスドク）	15(5)
6月9日（金）	農学セミナー3（種子タンパク質のシグナルペプチドの切断位置に変異を導入したシロイヌナズナの解析/小泉望・公立大、種子タンパク質を指標にしたシロイヌナズナ膜交通変異体の単離と発芽時の成長異常の解析/嶋田知生・(京都大)、大豆種子タンパク質の特性/丸山伸之(京都大)、イネ種子貯蔵タンパク質の合成・蓄積機構の解析と有用タンパク質生産/増村 威宏(京都府大)	30(10)
6月30日（金）	オープンセミナー(植物の機能性成分含量と防御応答ー遺伝子発現制御による高蓄積化の可能性ー/山口夕・公立大)	30
7月31日（月）	FD セミナー（「大学院生のキャリアデザイン支援を考えるー文学・理学など基礎系研究分野の支援事例を中心にー」） https://www.omu.ac.jp/las/highedu/info/topics/entry-32790.html	不明（農学教員は1）
8月3日（木）	農学セミナー5（イネのケイ素研究の新展開/山地直樹/岡山大）	37(2)
9月28日（木）	シンポジウム（植物微生物研究会特別講演-極域の植物病原微生物の種類や生態から見えてくるもの/東條元昭・公立大）	100 (5)
10月27日（金）	農学セミナー6(気候変動適応とスマート農業の視点から	100(2)

	考える稲作水管理/坂田賢・公立大)	
12月15日(金)	シンポジウム(ウイルスの利用に向けて～卵菌ウイルスの探索と宿主菌への影響～/望月知史・公立大、微生物で地球を冷やす～温暖化ガスを分解する土壌微生物～/今泉温子・農研機構、生物農薬技術の開発－企業の取り組み－/森光太郎・石原産業、紙一重で菌は植物の敵にも味方にもなる～糸状菌の共生・寄生戦略の多様性・連続性～/晝間敬・東京大)	150
12月15日(金)	シンポジウム(ウイルスの利用に向けて～卵菌ウイルスの探索と宿主菌への影響～/望月知史・公立大、微生物で地球を冷やす～温暖化ガスを分解する土壌微生物～/今泉温子・農研機構、生物農薬技術の開発－企業の取り組み－/森光太郎・石原産業、紙一重で菌は植物の敵にも味方にもなる～糸状菌の共生・寄生戦略の多様性・連続性～/晝間敬・東京大)	150
2月24日(土) 3月2日(土)	オープンセミナー(ランドスケープからの都市再編/小松良朗・(株)日建設計)	15 (3)
3. 教育改善・教育評価・FDに関する会議、委員会等の開催		
会議・委員会名	内容・開催日 (複数回の場合は「第1回(*月*日)～について」 「第2回…」と記載)	委員の人数
農学部教務委員会	第1回(6月30日)転学部・転学科の各学科受入年次について、他 第2回(9月29日)学位授与日の統一について、他 第3回(1月17日)履修課程表のカリキュラム変更について、他	8
農学研究科教務委員会	第1回(6月30日)再入学について、他 第2回(9月29日)単位修得退学となる条件について、他 第3回(1月17日)博士前期課程の入学定員増加について、他	8
応用生物科学科/専攻会議	第1回(4月28日)学生へのコンプライアンス教育の検討、他 第3回(6月30日)転学部・転学科の受け入れ、再入学、早期卒業について、他 第4回(7月28日)大学院の定員についての検討、他 第6回(9月29日)実習実験科目の欠席の取り扱いについて、他 第7回(10月27日)大学院の定員についての検討、他	24

生命機能化学科/専攻教授会	第1回5月11日 新入生に関する教育についての検討 第2回6月8日 専攻学生教育に関する検討 第3回7月6日 専攻学生教育に関する情報交換 第4回8月3日 効率的な教員配置に関する検討 第5回9月13日 効率的な教員配置に関する情報共有 第6回10月12日 効率的な教員配置に関する検討 第7回11月9日 専攻学生教育に関する検討 第8回11月29日 専攻学生教育に関する検討 第9回12月18日 専攻学生教育に関する検討 第10回2月7日 専攻学生教育に関する検討	9
生命機能化学科/専攻学生実験担当者会議	第1回8月2日 2024年度TA要求について 第2回2月21日 TAの有効な配置に関する検討	11
緑地環境科学専攻会議	2023年4月28日 教学アセスメントリスト, GPCを参考にした授業改善に関する検討	23
緑地環境科学科実習演習検討WG	4月1～5日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習基礎A）の実習書の作成 4月1～11日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習基礎A）の実施方針の精査 4月12日 合理的配慮が必要な学生への対応方針の検討 5月23日 合理的配慮が必要な学生への対応の経過報告 6月16日～6月30日 シラバスチェック結果への対応検討 8月4～18日 2023年度TA配置計画の検討 8月6～9月4日 提出課題における不正行為への対応 8月20～25日 「教育研究のための生態展示設備の整備および自動監視システムの構築事業」の検討（2023年度学長部局重点予算追加募集） 8月23日～9月20日 新規実習科目（緑地環境科学実習演習基礎B）の実習書の作成 9月7～13日 実習内容の高度化と効率化を図るための機器整備計画の検討（2024年度新規・重点予算要求） 9月14日 第1回実習演習WG（対面実施）の開催（前期総括） 11月21日 第2回実習演習WG（対面実施）の開催（実習機器の整備計画の検討、実習科目の代表教員の配置検討）	10
4. 上記以外の教育改善・FDに関する取組（但し、成績GP分布関連は次項に）		
・応用生物科学科では以下の授業アンケートを独自に実施した：基礎微生物学（受講者57名、10回実施、回答数536/570回収率94%）、植物病理学（受講者57名、ほぼ毎回実施、回答数671/741回収率91%） ・生命機能化学科では、複数の講義で独自に授業内容に関する学生へのアンケート調査を実施した。		

・緑地環境科学類では以下の授業アンケートを独自に実施した：植物形態分類学（回答数 58/59、回収率 98%）、緑地環境科学実習演習（回答数 51/54 件、回収率 94%）、水理学（受講者数 36 名、授業毎のアンケートの平均回答率 95%/授業全体のアンケート 32/36 名、回答率 89%）、水環境管理学（受講者数 16 名、講義毎に実施、平均回答率 96%）、緑地環境科学実習演習入門 B（受講者 52 名、回答者 51 名、一部の授業で実施、平均回答率 98%）、生態環境計測学（回答数 40/44 名、回答率 91%）、生物生産工学（受講者：25 名、定期試験の前週に実施、回答者 16 名、回答率 64%）、動物形態分類学（受講者：54 名、定期試験の前週に実施、回答者 50 名、回答率 93%）、動物昆虫管理学（受講者：46 名、定期試験の前週に実施、回答者 41 名、回答率 89%）

- ・緑地環境科学類研究グループ説明会（2年生対象，12月18日・20日）51名中50名参加

・緑地環境科学類研究グループ分属に関する意識調査（2年生対象12月20日），51名中35名回答

・内部質保証の取り組みに活用するため、外部アセスメントテストを緑地環境科学科 1, 2 年生、緑地環境科学類 3 年生のそれぞれ約 90% に実施した（2 年連続の 1 年目）。2024 年 3 月 1 日（予定）に開催する学科/専攻会議で結果を共有し、議論を行う。

5. 成績 GP 分布、GPC データの分析に関連する事柄 (必ずご記入ください)

・応用生物科学科/専攻: 2024 年 3 月 7 日に開催した学科/専攻会議において、前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。大学院の一部の科目で高い AA 比率が見受けられたことから、今後の成績評価をより厳密に行うことを申し合わせた。

・生命機能化学科/専攻：2024年3月6日に開催の学科/専攻会議において、前期開講科目の成績 GP 分布および GPC データを分析し、問題点を共有した。一部の科目で高い AA 比率が見受けられたことから、今後の成績評価をより厳密に行うことを申し合わせた。

・緑地環境科学科/専攻: 成績 GP 分布および GPC データをグラフ化して分析し、共有した。大学院では AA の増加傾向が見られたが、学部では変化がなかった。2024 年 3 月 1 日に開催した学科/専攻会議で問題点について議論を行った。

6. 年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数「実数」(必ずご記入ください)

・年に1回以上、FD活動に参加した専任教員の人数 (69) 人

・所属内の専任教員の人数 (69) 人

7. その他、追記事項

・高等教育研究開発センター会議への出席（平井規央教授・月1回）

・アクセシビリティ支援委員会会議への出席（稲田のりこ教授・2023 年中 8 回）